

講演 「太古の岩石を求めて南極へ」

高知大学理学部 吉村康隆先生

南極は、2億年前にアフリカやインドとともに、ゴンドワナ大陸を形成していました。講師の吉村先生は、第四十次の観測隊員として、南極に出向き、ナピア岩体の地質を調査研究しました。

ナピア岩体は、1,000℃以上という超高温で変成された片麻岩からなっています。その変成年代は40億年と、地球最古の岩石体です。岩石は、10kbの圧力を受けており、これは、地下40kmに相当します。

吉村先生に現地で採取された岩石を持ってきていただき、その前でディスカッションをしました。片麻岩は、大粒のガーネットを多数含み、その変成のすさまじさを物語っていました。超高温変成を証拠付けるグラニュライト相のサフィリン鉱物を観察、40億年前に思いをはせたことでした。

南極とくっついていたのはインドですが、両者の岩石の年代が異なるという測定結果もあります。もしもそれが事実なら、ゴンドワナ大陸の説が根本からくつがえされます。以後の研究を期待します。

吉村先生は、南極観測のエピソードを数多く語ってくれました。エピソードを聞きながら、お別

れといたします。

① 昭和基地への途中で、オーストラリアの観測船が氷山に閉じ込められていて、それを救助した。彼らは、悲壮感が無く、「しらせ」がきたと、喜んでカメラを回していた。

② 南極だからペンギンが何羽か訪れる。彼らが数多くくると天気が悪くなる。彼らは飽きるのも早く、よちよちと帰る姿の何と愛らしいこと。

③ キャンプ地は、風が強く、観測用のヘリコプターがブリザードで壊されて観測不能になり、昭和基地に回収され、遊軍として肉体労働に従事させられた。それだけではかわいそうだと、何日間か、昭和基地周辺の地質調査が許可された。

④ 吉倉先生の頃は犬ぞりでしたっけ？（違うよと、氏の声）